

!(^^)!笑顔!笑顔!笑顔! 学校だより

長崎市立古賀小学校

NO. 12

令和6年2月5日 発行

2月の雅名である如月は『生更ぎ』と書かれ、草木が生き更(か)える早春月の意味があるとされています。また、まだまだ寒さが厳しいので『衣更着』という当て字で表現することもあります。節分や立春など、季節を感じる言葉や行事と関係深い29日間です。祝日もありますので、登校する日は19日しかありません。『2月は逃げて行く!』とも言われますから、今まで以上に時間を大切に学校生活を送りたいものだと思います。

2月の主な行事予定

5日(水) 4年以上6校時授業	18日(日) 家庭の日
11日(日) 建国記念の日	19日(月) 4年以上6校時授業
12日(月) 振替休日	23日(金) 天皇誕生日
13日(火) 2,4,5年授業参観、懇談会	26日(月) 4年以上6校時授業
14日(水) 1,3,6年授業参観、懇談会	27日(火) 学校保健委員会

※3月18日(月) 卒業証書授与式 3月22日(金) 修了式・離任式

《大谷グローブが古賀小にも届きました!!》

報道等でも皆様ご存じのように、メジャーリーガー大谷翔平選手から全国の小学校にグローブのプレゼントがありました。各都道府県で配布時期は違うのですが、長崎市には年末の2学期終業式の日以降に配付され、古賀小学校にも3つの大谷グローブが届きました。右用2つ、左用1つの計3個です。グローブにはサインも入っており、メッセージも付いています。3学期始業式で全校児童に紹介し、その後、各学級に順に回し、発達段階等も考慮しながら、子どもたちはグローブを手にはめたり、軽くキャッチボールをしたりしました。その後も、学年・学級の実態に合わせながら使える場面があったら使えるようにしています。

以下に送られてきたメッセージを記載します。



ロサンゼルス・エンゼルス・オブ・アナハイムのメジャーリーガー、大谷翔平です。この手紙は、このたび私が学校に通う子どもたちが野球に興味をもってもらうために立ち上げたプログラムを御紹介するためのものです。

この3つの野球グローブは学校への寄付となります。

それ以上に私はこのグローブが、私たちの次の世代に夢を与え、勇気づけるためのシンボルとなることを望んでいます。それは、野球こそが、私が充実した人生を送る機会を与えてくれたスポーツだからです。

このグローブを学校でお互いに共有し、野球を楽しんでもらうために、私からのこの個人的なメッセージを学校の児童たちに伝えていただけたら幸いです。

野球しようぜ。

大谷翔平

※グローブ寄贈決定時は、エンゼルス在籍。現在はもちろんドジャース所属

大谷選手は、野球選手ですから、『野球しようぜ』という言葉どおり、野球をしてほしいという気持ちがまずあるでしょう。しかし、小学生全員が野球をするわけではありません。野球しようぜという気持ちと共に『夢をもってほしい』『目標をもちましよう』という気持ちもあって、プレゼントしてくれたと考えます。古賀っ子たちにも『夢や目標をもってがんばる』『いろいろなことをすぐにあきらめない』『夢や目標のために自分ができることを大切にす』ということを始業式で話しました。

地域の校内ボランティア支援員の方に来ていただいています

学習や学校生活中の校内ボランティア支援員として、地域の元教員等、教育に関係してきた方4名に3学期から来ていただいています。それぞれ週1日程度、2、3時間ほどのボランティア活動です。支援する学級も限られます。しかし、今の学校の状況はマンパワーが必要であり、感謝しかありません。子どもたちにも感謝をもって接してほしいものです。

学級懇談会の参加もよろしくおねがいします

2月13日(火)14日(水)は、授業参観があります。今年度、最後の授業参観です。ぜひ、ご都合をつけられてご来校いただきたいと思います。また、今回は、残念ながら学級懇談会の参加者が10人以下のクラスが複数見られました。ぜひ、学級懇談会にも参加していただき、保護者間でいろいろなことを共有していただいたり、日ごろの学級や子どもの様子について話し合ったり、知っていただいたりしてほしいと思います。懇談会は学校主催でなく、育友会主体のものでもあります。なお、低学年の子どもたちを中心に図書室で待たせることもできます。ぜひ、懇談会の参加もよろしくおねがいします。また、以前にもおねがいしましたが、保護者の方々の日ごろからの来校、参観も大歓迎です。御自分のお子様はもちろん、他のお子様も含めて、意欲の増進、望ましくない言動の抑制にもつながります。

《『やる気』について》

『なかなかやる気がなくて!』『どうしたらやる気が出るのだろうか?』という疑問は、ほとんどの方がもたれたことがあるのではないのでしょうか。脳科学的にいうと、やる気を生み出す脳内の場所があるそうです。その場所を刺激することが大事で、刺激するためには、いやでもまず『そのことを実際にやってみること』が必要だそうです。

やる気は、出てくるまで待っていても出てこないのです。とにかく、まずは行動してみる、行動しないことにはやる気は出てこないのです。

『宿題等について、やる気がなくてなかなかしようとししない』といった悩みはよく聞かれることです。このことを前述の理論で考えると、『やる気が出ないから宿題をしない。』ではなく、『宿題を必ずするという習慣が身につけていないから、やる気は生まれません。』ということになります。

『やる気があるから宿題をきちんとする。』でなく、『宿題は必ずするという習慣が身につけていて必ず学習するから、学習するうちにやる気は生まれてくる。』ということになります。

そもそも宿題に限らず、やる気があってもなくても、必ずやらなければならないことまでやる気の有無との関連で語られることは結構多いものです。これは、やる気がそれをやらない理由に使われている状態であり、このような見方が多くなってくると、子どもは多くの面で自分の好きなことしかしないようになってきます。気をつけておきたい見方です。

やる気を出すための第一歩は、『まず行動してみる』こと、『いやだと思ってもとにかくやってみる』ことです。子育てや教育における『まずはさせてみる』という適度な強制、『やるようになっていくことは必ずする』という習慣化には、やはり意味があるようです。